

## コラム 25 :【今のあなた・今のわたし】

お子さんが非行に走ったり、不登校になったり、反抗したり、色々と困ったことが起こる場合があります。これらは成長のプロセスなのですが、当事者である親御さんは、学校や迷惑をかけた方々にお詫びをしたり、申し訳ない気持ちでいっばいになったりすることでしょう。

このようなケースでは、その後なんとか持ち直したけれど、お子さんが二十歳を過ぎて、再度つまづいてしまった時は、どうしても「目の前にいる子」でなく、「昔悪さをした子」の幻影を見てしまいがちです。

子どもの側も「昔の親（自分より世間が大事な親）」の幻影がちらつき、親との会話を拒否してしまうことがあります。

お互いに「昔のあなた」しか、見えなくなっているのですね。

だから、親子間の会話が閉ざされてしまっている時は、「昔のお母さんは確か菓子折りを持って、あちこち謝りに行ってたわよね〜。でも今はもう違うのよ」と「今のわたし」を伝えてみましょう。すぐには信じてもらえないけれど、会話の糸口はつかめるかもしれません。その後で、子どもから「今のわたし」を教えてもらいましょう。問題の解決は、まず会話をするところから始まります。